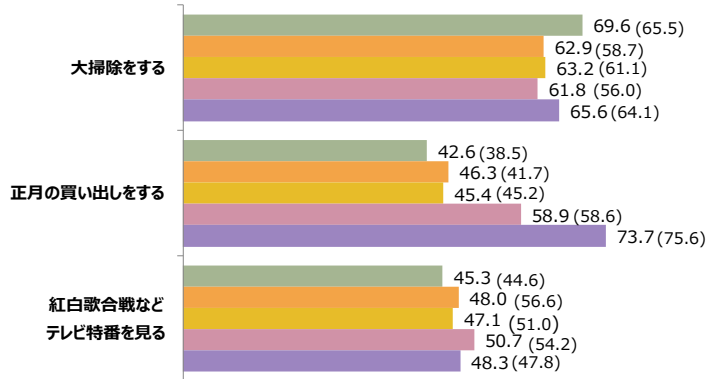


01 Woman's Trend

年越し・お正月の過ごし方、あれこれ。昔ながらの慣習はどれくらいやっている？

年末年始が楽しみ7割、気が重い3割…そのワケは？

◆今年の年末から年越し、行う予定にしていること、上位7項目。()の数字は昨年の年末から年越しに行った割合(グラフ1)

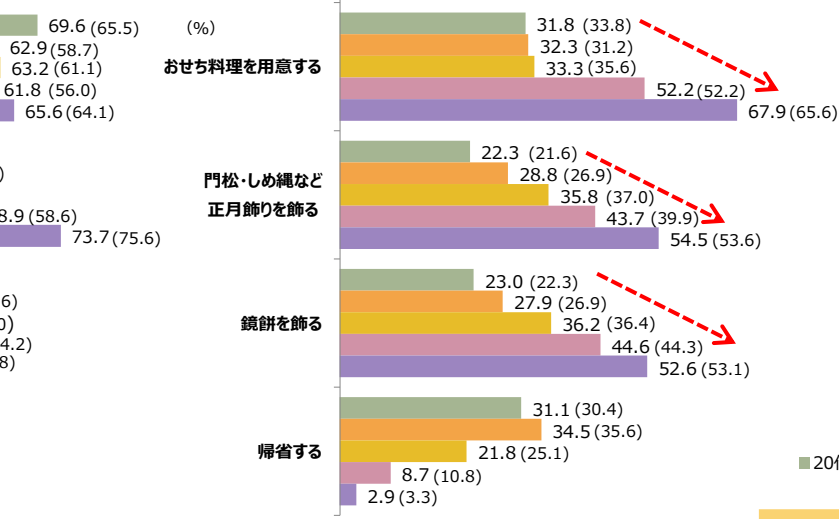


年末年始、日本の年越し・お正月の過ごし方を、全国の女性1636人に調査した。

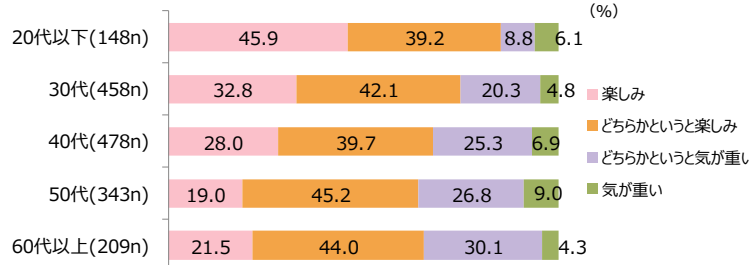
今年の年末から年越しに行う予定にしていること、上位7項目はグラフ1のとおり。()内は、昨年の年末に実施した割合。

世代を問わず6割以上が行う予定にしているのは「大掃除」。昨年末に実施した割合とややポイント差があるのは、20代以下、30代、50代。昨年やらなかったから今年こそ、と思っているのか、この調査をした11月上旬の時点では、やる気満々なのか？

世代によって差が出たのは、「おせち料理の用意」「正月飾り」「鏡餅」のいわゆる新年を迎える準備。20代、30代は帰省する人が3割を超えるため自身で用意することが少ないのかもしれないが、40代、50代でも、「正月飾り」「鏡餅」を飾る人は半数を下回る。昨年行ったかどうかとのポイント差も少ないので、用意する習慣がない人は一定数いるようだ。昔からのしきたりも少しずつ変化しているようだが、「食事」に関する設問で、大晦



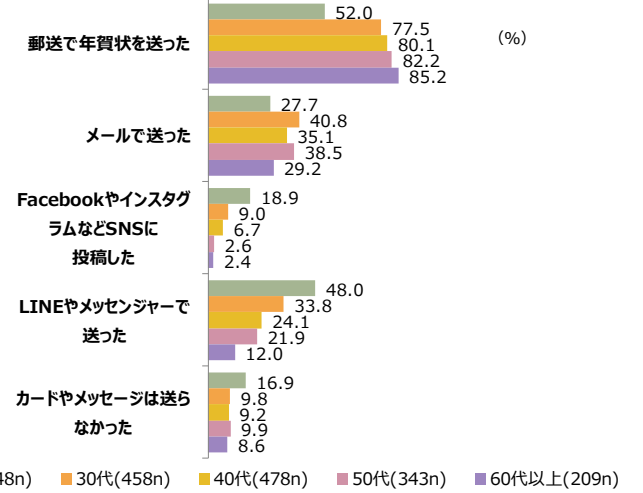
◆年末年始は楽しみ？(グラフ3)



日に「そば」を食べる人は、各年代とも8~9割と「年越しそば」の慣習は、根強い。

新年の挨拶をどんな方法でしたかは、郵送で年賀状を送ったのは30代以上で8割前後。ただ、30代、40代、50代はメール3~4割、LINE・メッセージも2~3割おり、複数の手法を使い分けているようだ(グラフ2)。

◆2018年の新年の挨拶はどうした？ 複数回答(グラフ2)



年末年始が楽しみ！な理由	気が重～い理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり家族団らんで過ごせるため。長期の休みは年末年始ぐらいなので(34歳) ・旦那が休みで子供たちの面倒を見てくれるし、おせちがあるからご飯の準備をしなくてゆっくりできるし、実家でゆっくり過ごせる(35歳) ・大好きな家族と一緒にゆっくり過ごせるので。おせちや大好きなカニを思う存分食べられるので幸せです(36歳) ・実家に帰省し、大人数で賑やかに正月を過ごせるため(40歳) ・家事を極力お休ませてゆっくり過ごすから(61歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お年玉でかなりの金額が飛んでいくので正直、憂鬱(35歳) ・夫の実家に帰省、準備、お年寄り、挨拶回り、一日も休む日がない(37歳) ・大掃除、買い出し、おせちの準備、洗濯…私一人がバタバタ動き続け、元旦は疲れ果てている(53歳) ・ゆっくり休みたいけれど、年末年始の恒例のことを次の世代に伝えていきたい。とはいうもの手抜きになってきました(62歳) ・夫が家にいて、3食用意しないといけなし、お正月のおせち料理も用意するので、食費が高つくし、料理も面倒(62歳)

年末年始期間を楽しみに思う人は、全体で約7割。年代が上がるにつれ少なくなるとはなるものの、50代、60代でも6割を超える(グラフ3)。「楽しみに思う」理由で多いのは「ゆっくり過ごせる」「家族・親戚との団らん」。一方、「気が重い」人の理由では、とにかく「忙しい」が圧倒的。家で

過ごす派は家族が一日中家にいて、いつも以上に家事に追われる。帰省派では、帰る方も迎える側も気配りと準備で大忙し。せっかくの長期の休み、主婦にとっては、どれだけゆっくりできるかが、年末年始を楽しめるかのカギになる。(所長 西 桂子)

2018.10.31~11.4 リビングWeb・あんふぁんWeb・シティリビングWebでのWeb調査 集計数：1636人 平均年齢：44.9歳/ 内訳：20代以下9.0% 30代28.0% 40代29.2% 50代21.0% 60代以上12.8%/ 独身28.4% 既婚71.6% データは小数点2位以下四捨五入

02 Working Woman's Real

【従業員に聞いた、勤務先の健康経営事情】健康増進に熱心な企業は7割近く 従業員数が多いほど制度がある

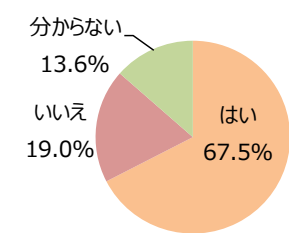
オフィスで働く女性のための情報誌「シティリビング」配布窓口担当者に、「勤務先の健康経営」事情について調査したところ、「勤務先が従業員の健康増進に熱心に取り組んでいると思う」人は67.5%。従業員数が100人以下の企業では4割だが、301人以上の企業では7割を超える。

21の制度・仕組みについて、勤務先にあるかどうか聞くと、ある率が7割超なのは、「婦人科検診の補助」「有給休暇取得の推進」「インフルエンザ予防接種の補助」「法定健康診断以外の人間ドック項目が受けられる」「残業を減らす取り組み」。

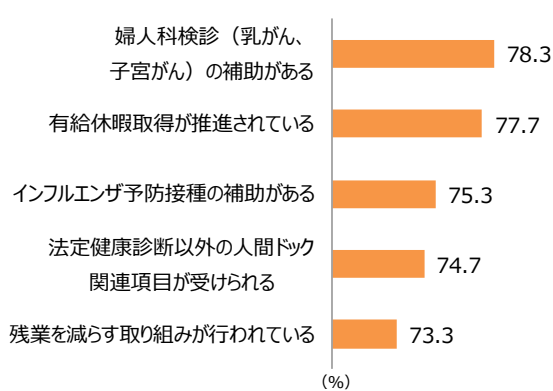
勤務先の従業員数別の差が少ない、つまり幅広く実施されているのは、「インフルエンザ予防接種の補助」。「100人以上」はいずれも実施率が8割を超え、「100人以下」は6割だった。その他の項目では、従業員500人以上のセグメントの実施率が高い。

2018.8.29~9.04 シティリビング配布窓口担当者へのWEBアンケート調査 集計数:501

【勤務先は、従業員の健康増進に熱心に取り組んでいるか？】



【勤務先にある、従業員の健康管理・健康増進のための制度・仕組み】 ※上位項目抜粋、複数回答

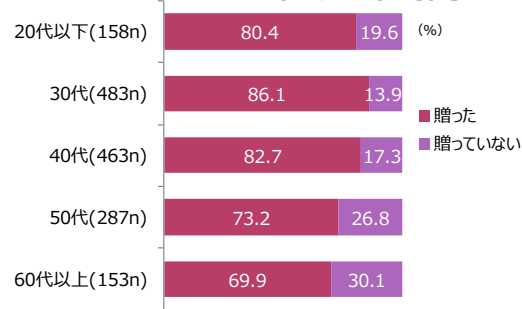


03 Seasonal Data

バレンタインに関するデータはくらしHOWサイト「暮らしの歳時記と消費」に掲載中！

約6割が、「バレンタイン」は楽しみ！ 普段は手に入りにくい、チョコ選びが楽しい

【2018年のバレンタインにチョコレートを贈ったか(“自分に”も含む)】

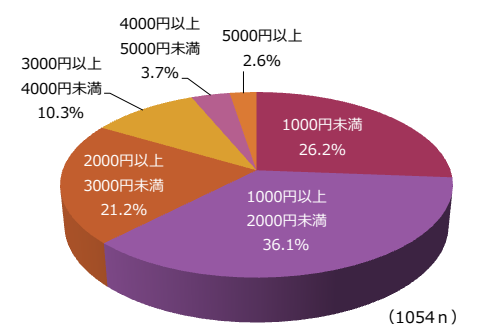


2018年のバレンタイン、“自分に”も含めてチョコレートを贈った経験があるのは全体で80.5%。60代以上でも約7割が贈っており、全世代に浸透しているといえる。そのうち、「手作りチョコ」を用意した人は、20代以下が43.3%と、最も高くなっている。

市販品を購入した人の最も高額だったチョコレートは、1000円以上2000円未満が36.1%とボリュームゾーンだが、2000円~5000円も35.2%。百貨店で購入した人が56.3%と、高級志向も広がっている。

調査方法/ Webアンケート 調査対象/ 「リビングWeb」「シティリビングWeb」「あんふぁんWeb」ユーザー [回答者プロフィール]未既婚：独身27.7%、既婚72.3% 子どもの有無：いる60.8%、いない39.2% 調査期間/ 2018.11.7~11.11 有効回答数/ 女性1544人 (平均年齢：43.3歳)

【最も高額だったチョコレートの費用】



バレンタインを「楽しみ」と思う人は約6割。その理由に「期間限定商品が楽しみ」「普段は手に入りにくい海外のチョコレートが豊富」など、チョコレートそのものや選ぶ楽しみをあげる声が多い。一方、約1/4近くの「気が重い」人の理由では「義理チョコやお返し(夫がもらった分への)の準備が面倒」「子どもの友チョコづくりが大変」という声が。

年明けには、すぐ始まるバレンタイン商戦。来年は、どんな魅力的なチョコレートが登場するか楽しみだ。